

問題は次のページから始まります。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「A」

みなさんは、はやく大人になりたいと思っ
ていらっしゃるのでしょうか、それとも、
できるものなら子どものままでいたいと思
っているのでしょうか。どのよう
に思っているとしても、めでたく日々を
過ごせば、そこに待っているのは大人の
毎日です。そうかな、大人なんてい
るのかな。テレビや新聞は、「大人」と呼
ばれる人たちがそれぞれの文脈のなかで
困ったことをしてかしていることを連
日伝えていきます。それが、「子ども」の
ままでいたいと思う人がいる、ひとつの
理由でしょう。I 大人になるとは、ど
ういうことなのでしょう。かりに二つの
立場を考えてみましょう。

大人になるとは自分を取り巻く文脈を
十分に理解していることであり、大人
としてよりよく生きるとは、その文脈
のなかで自分もっている役割をよりよ
く果たせることだ。こんなふう
に言う「大人」もいるかもしれません。
そうだなあ、と納得する人もい
るでしょう。私たちは、この世界に産
み落とされ、なんらかの文脈（地域、
文化、言語）で育ってきたのだから、
この文脈のなかに留まるかぎり、学
ぶべきは自分が属している文脈と自
分の役割なのだ、と。

他方、大人になるとは自分を取り巻く
文脈から距離をとって自分自身で立
ち、そうした文脈を配慮しつつも、自
分を見失うことのない人だ。こんな
ふうにする「大人」もいるかもしれま
せん。大人と子どもの違いは「自立」
しているかどうか、はっきり見て取
れると考えるからです。

どちらの立場も一面的です。前者に
ついては、文脈そのものがおかしな
こともあるのだから、そんな文脈の
なかで役割を担

うことなんてしたくない、とつぶやく
人もいます。そう
いう人は、自分の生き方が文脈だけ
によって決められるものとは思
わず、自分も文脈の①よしあしを
判定する立場に立っていると
思っています。もつと言え
ば、そういう人のなかには、自
分こそがよりよい文脈のはじまり
となれるし、なるべきだ、と思
う人もいます。後者についても、
②大人の自立などまぼろしでは
ないか、という疑問がわいてき
ます。自立して生きるためには、
一般的には、働くことが必要
だし、働くためには職場が必要
で、その職場に就職することは、
そこに役割を見つけていること
なのでしょう。大人だって何
らかの文脈に属しそれに依存
しているのです。

大人にかんする②対立する二つの
立場を描いてみました。ど
ちらか一方が正しいということ
は、もちろんありません。しか
し、ひとつによって、哲学者
によっても、どちらに重点を置
くかという相違はあるでしょう。
一八世紀の哲学者、イマヌエル・
カント（一七二四—一八〇四）
は、③まっとうな大人とは、自
分を出発点として自立し、文脈
のなかで生きながらも、ものご
とのよしあしを自分で判定する
人だ、と考えるタイプの一人と
言っています。

彼が生きた一八世紀は、前世紀
から続く啓蒙運動の時代でした。
啓蒙運動とは、日本語で「蒙
を啓く」と表現されていると
おり、ものごとを見極めること
なく宗教や習俗に従うままの
人間のあり方（蒙）に対して、
光をもたらすことです。そして、
ものごとを明るく見定めること
によって、人間を※迷妄から
解き放ち、人間社会を理の通
ったものにしよという思想運
動です。こうした態度は、それ
まで人間や社会を支配していた
考え方や価値観を疑い、それ
らから自由になろうとするもの
であり、カントもまた、こうした
態度をもった哲学者として生
きた

のです。

彼は一七八四年に書いた論文「啓蒙とは何か」で、啓蒙運動の※モットーは「自分自身の悟性ごせいを使用する勇氣をもて」だと記しています。「悟性」という見慣れない用語が出てきますが、これは人間ひとり一人がもっている「理解する能力」を意味します。私たちがなにかを理解するには「考える」ことが必要ですから、このモットーはひろく「自分で考える勇氣をもて」と言いかえることができるでしょう。カントがみなさんに「自分で考える勇氣をもて」と呼びかけたのでしょうか。みなさんはその言葉をどう受け止めるでしょうか。はいはい、自分で考えればいいのではよ、かんたんなことです。こんなかんたんなことに「勇氣」とか、大げさじゃないですか。そう思うのでしょうか。

まず、自分で考えるのは、かんたんなことでしょうか。この問題を考えるには、カントが生まれるより、およそ一〇〇年前に亡なくなった哲学者、フランシス・ベーコン（一五六一—一六二六）の有名な③イドラ論を参照することが有効でしょう。彼は、学問や技術に大きな革新をもたらそうと企くわてましたが、そうした革新の出発点を確保するために、私たちの精神が抱いだいてしまっている先入観（イドラ）を拭ぬい去ることが必要だと考えました。精神が先入観でゆがんでしまっているとき、私たちはものごとを正しく理解できないからです。そこで彼は、著作『ノヴム・オルガヌム』（一六二〇年）などで、イドラ批判を展開しました。この著作名は、自然を研究する哲学が古来から使用してきた道具（機関、オルガノン）に対して、新しい道具（新機関）を提供しようという、ベーコンの意図を表現しています。ベーコンの指摘するイドラは、私たちの知性に影えい響きやうを与あたえ、それを支配しています。それを拭ぬい去らなければ、新しい学問

は出発できません。しかし、私たちがなにか考え始めるとき、人間や自分のくせを理解してそれをあらかじめ※矯正きようせいすることなどできるでしょうか。新たに言葉の定義から問い直すことなどできるでしょうか。世間で有力な学説に寄りかかることなく深く考えられるでしょうか。まとめて言えば、先入観なしで私たちが考えられるでしょうか。いや、それがいくらかでもできなければ、へ自分で考えることはできません。だからこそ、自分で考えることは容易ではないのです。

次に、自分で考えるのに、④なぜ「勇氣」がいるのでしょうか。先入観に従っていけば、つまり自分で考えないでいけば楽なのに、あえて考えるからでしょうか。それだけで「勇氣」という言葉を用いる必要はないでしょうか。むしろ、自分で考えさせたくない勢力を、私たちは人間社会に見出みだすべきです。ひとびとを自分の思うがままに動かしたい人々のことを考えてみてください。さ。そうした人々はしばしば権力や※権威けんいをもっています。そこには、自分で考えようとする人への圧迫あつぱくが生まれることでしょう。それをね退のけて、自分で考えるのは勇氣のいることではないでしょうか。カントが論文「啓蒙とは何か」で念頭ねんとうにおいていたのは、こうした事態です。

しかし、「勇氣」は他人との関係かかだけに關わるものではありません。ベーコンとともに私たちが一切いっさいの先入観を排除はいじょするとしましょう。そのとき私たちは、自分が身につけた習慣も、自分が受けた教育も疑うこととなります。これらは私たちに安定した日常を提供してくれているものではないでしょうか。あいまいな言葉であっても、それで日常生活が成り立っているのではないのでしょうか。

私たちは、学校で勉強べんきやうすることを通して、人間社会に通用こ用ようしている、※真偽しんぎ、善悪ぜんあく、※美醜びしゆうを学んできたのではないでしょ

うか。それらを一時なりとも離れるなら、私たちは自分自身の生きる手がかりを見失ってしまうのではないでしょうか。⑤暖かいコートも上着もはぎとられて、寒風の中に薄着のままひとりでたたずむような感じがしませんか。

ここで、ルネ・デカルト（一五九六—一六五〇）のことも思い出しておきましょう。彼もまた、学問の刷新を求め、そのために疑いをさしはさむことのできない出発点を求めた哲学者です。彼が、すべてを疑うことで、**II**、疑っているかぎり、疑っている私がいる、という疑いえない事態を捉えだしたことは有名です。「われ思う、ゆえにわれあり」です。

ベーコンやデカルトの記述を踏まえることで、カントが「自分で考える勇気をもて」と呼びかけた意味が伝わったでしょうか。私たちは、年齢を重ねるなら、**©**おのずから「大人」と呼ばれる人になっていきます。しかし、外見は「大人」でも、まっとうな大人でない人もいるかもしれない。いや、実際にいるでしょう。**III**、どんな大人にも、ときにはまっとうな大人として生きられないことがあるかもしれません。

そこには人間ひとり一人にどこまでもつきまとう未熟さがあります。カントはそうした未熟さを「未成年状態」と表現し、さらに、それは私たち自身に責任があるのだ、と先に挙げた論文に記しています。もう自分で考えることができるのに、勇気がなくて考え始められないのは、当人の責任だということです。

もしみなさんが、まっとうな大人になりたい、と思うなら、カントとともに勇気を奮って、自分で考え始めてみてはどうでしょうか。自分で考えることは、勇気が必要とする、ひとつの冒険かもしれません。

（御子柴善之 『自分で考える勇気』 一部改変）

※（文中のことばの意味）

迷妄 … 誤りを正しいことと思ひ込むこと。
モットー … 目標にすることがら。
矯正 … 欠点やまちがいなどを正しく直すこと。
権威 … 人をおさえつけて従わせる力。
真偽 … ほんとうか、うそか。
美醜 … うつくしいか、みにくいか。

問1 **I** **III** にあてはまる最もふさわしいことばを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

ア むしろ イ たとえば ウ そもそも
エ おおよそ オ かえって

問2

~~~~~線①②③の文中における意味として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

① よしあし

- ア じょうずなものとはたなもの
- イ よいことと悪いこと
- ウ 単純なものと複雑なもの
- エ 容易なことと困難なこと

② まっとうな

- ア すてきな
- イ りっぱな
- ウ 優秀ゆうしゅうな
- エ まともな

③ おのずから

- ア ひとりでに
- イ 少しずつ
- ウ 意味もなく
- エ まわりから

問3

——線①「大人の自立などまぼろしではないか」とありますが、なぜそう考えられるのですか。その理由を「から」につながるように、文中から二十三字でぬき出しなさい。

問4

——線②「対立する二つの立場」とありますが、それぞれ三十文字以内で説明しなさい。句読点なども字数に数えます。

問5

——線③「イドラ論を参照することが有効でしょう」とありますが、その理由が述べられている部分を、文中から四十文字でぬき出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問6

——線④「なぜ『勇氣』がいるのでしょうか」とありますが、その理由を筆者はどのように考えていますか。「他人」との関係と「自分」に関することに分けて、それぞれ五十文字〜六十文字で説明しなさい。句読点なども字数に数えます。

問7

——線⑤「暖かいコートも上着もはぎとられて、寒風の中に薄着のままひとりたらずむような感じ」とありますが、これはどのような思いを表現したのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア さびしさ    イ つらさ    ウ 不安    エ 絶望

問8 この文章を読んだ人たちが、感想について話し合いました。文章の内容をまちがってとらえているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ぼくは、早く大人になりたいと思っていて、そのためには自分で考える勇気が大切だと思った。筆者は自立するためには考えることが最も重要と述べているが、考えて行動して勇気のある人になりたい。

イ わたしは、先入観なしで考えることができそうに思えないので、自分で考える勇気が持てないかもしれない。ベークンの考え方を読んだときは、本文にもあるように、先入観なしで考えることの難しさを深く感じた。

ウ ぼくは、この文章を読んで、もっと積極的に考えていこうと思った。でも、筆者の言うように、学校で教わったことまでも疑うことができるか自信がない。考えるということは、やはり勇気がいることだと思った。

エ わたしは、本文で述べられているように、人間には未熟なところがあると思う。ただ、だからといって全く考えないのではなく、考えようとする意志が何よりも大切ではないかという気がしてきた。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「B」

NHKの合唱コンクールで、小学生の部の課題曲として、僕が作詞した※嵐の『ふるさと』が選ばれたことから、この合唱コンクールを広報する番組に携わったことがあります。

そこで「歌の上手い、きれいな声の人だけを集めても良い合唱にはならない」ということを聞きました。高い声や低い声があったり、きれいな声があれば、ガラガラ声もあったり、いろんな声が集まってひとつのハーモニーが生まれ、人の心を揺さぶる合唱になるということです。僕はそれを聞いて、「なるほど」と感銘を受けました。

それはつまり、単にムダを省いたり、利益や効率ばかりを追求してしまうと、個性という光輝く宝物を見つけることが難しくなってしまうということ。

（小山薫堂 『じぶんリセット』 一部改変）

※（文中のことばの意味）

嵐 … アイドルグループの名。

感銘 … 心に深く感じて、忘れないこと。

問1 この文章から読み取れる筆者のメッセージを、□「A」の文章で用いられていた「先入観」ということばを用いて「く」というメッセージ。」につながるように、四十字以内で書きなさい。句読点なども字数に数えます。

問2

「B」の文章を読んで、あなたは自分の個性をどのようにとらえますか。また、その個性を活かすにはどのようにすればよいですか。あなたの意見を次の条件に合わせて書きなさい。

条件 … ア 百八十～二百字で書くこと。

イ 二段構成で書くこと。

ウ 一段落目には個性をどのようにとらえるかを、二段落目には個性を活かすにはどのようにすればよいかを書くこと。

これで問題は終わりです。